

平成23年度 大阪府学力・学習状況調査の結果概要

大阪府教育委員会

○学力に関する調査

- ・小学校:国語、算数
- ・中学校:国語、数学、英語

○学習や生活の状況、学校の取組みに関する調査

- ・児童生徒アンケート
- ・学校アンケート

○実施校数(6月14日実施分)

- ・小学校: 631校 (内、私立 9校)
- ・中学校: 318校 (内、私立40校)

○実施児童生徒数(6月14日実施分)

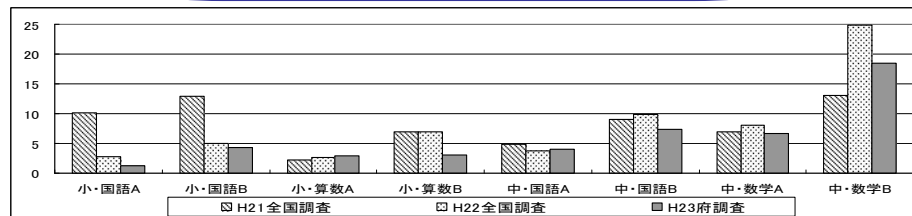
- ・小学校: 53,027人 (内、私立 844人)
- ・中学校: 47,871人 (内、私立 4,386人)

(1) 学力調査の概要

校種・教科・区分別正答率 経年比較

		H19 全国調査			H20 全国調査			H21 全国調査			H22 全国調査(抽出)			H23 府調査	
		全国(公立)	全国(私立)	大阪(公立)	全国(公立)	全国(私立)	大阪(公立)	全国(公立)	全国(私立)	大阪(公立)	全国(公立)	全国(私立)	大阪(公立)	大阪(私立)	大阪(公立)
小学校 国語	A区分	81.7	89.4	79.4	85.4	81.6	62.7	89.9	83.0	68.3	83.3	92.3	81.9	94.7	88.1
	B区分	62.0	78.0	58.0	50.5	67.0	47.0	50.5	64.8	49.4	77.8	88.7	75.8	79.4	64.9
小学校 算数	A区分	82.1	92.1	80.5	72.2	84.4	71.2	78.7	89.2	78.4	74.2	88.0	74.7	81.6	63.4
	B区分	63.6	77.1	60.7	51.6	65.7	49.9	54.8	67.4	53.8	49.3	63.3	48.1	65.3	51.2
中学校 国語	A区分	81.6	89.5	79.2	73.6	83.5	70.5	77.0	87.0	72.7	75.1	86.5	71.7	79.6	69.0
	B区分	72.0	84.0	65.0	60.8	74.9	55.2	74.5	86.3	68.3	65.3	78.9	60.2	65.8	53.2
中学校 数学	A区分	71.9	86.4	69.4	63.1	78.5	60.5	62.7	78.1	59.9	64.6	81.9	62.5	77.4	62.1
	B区分	60.6	77.6	55.3	49.2	64.9	45.2	56.9	72.2	52.5	43.3	65.0	39.5	53.1	38.7
	英語													79.7	61.1

校種・教科・区分別無解答率 経年比較



◆「知識」に関するA問題の正答率より、「活用」に関するB問題の正答率が下回っており、これまでの学力調査と同様、「知識・技能を活用する力」に依然として課題が見られる。

◆A問題の結果から

多くの子どもたちは、漢字の読み書きや計算などの基礎的・基本的な知識・技能は身につけているものの、その言葉や式などが持つ意味について、理解を深めることに課題が見られる。

◆B問題の結果から

無解答率が改善されており、深く考える問題等にも前向きに取り組む意識が育まれつつあると考えられる。文や図、グラフなど様々な形態で表現された問題を読み、そこからわかることや読み手の考えを書いたり、身近なことからについてその理由を説明したりする力をつけることに課題が見られる。

◆公立学校と私立学校の平均正答率を比較すると、すべての教科・区分において私立学校の方が正答率が高い。

その差は小学校で平均13.4ポイント、中学校で平均14.3ポイントであり、これは過去の全国調査の結果とほぼ同様の傾向である。 ※全国学力・学習状況調査における私立(全国)と公立(大阪)の平均正答率の差

[H19～H22平均] 小学校 14.5ポイント 中学校18.0ポイント

(2) 学習状況調査の概要

○ 学力向上に向けた組織的な取組が推進された

- ・「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有して取り組む」ことについて「よくおこなっている」と答えた学校が増加した。

○ 授業改善の取組が進み、「授業がわかる」と答えている子どもが増えた

- ・「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導」「発言や活動の時間の確保」などの授業改善は進んでいる。今後も、学力調査で見られる課題の改善に向け、基礎基本の徹底も含め、授業改善の内容をさらに充実させることが必要である。

- ・「国語や算数・数学の授業の内容はよくわかる」と答えた児童生徒が増加しており、授業においても「読み」や「書き」の活動で大切にすべきことを意識している。

○ 学習規律の維持への取組が引き続き必要

- ・「授業中の私語が少なく落ち着いていると思う学校」は小学校で増加したが、中学校では大きな改善は見られず、「授業規律の維持」を徹底することが引き続き必要である。

○ 子どもたちの自学自習力は向上しており、今後さらなる取組が必要

- ・「家で計画を立てて勉強している」「授業の復習をしている」と答えた児童生徒は増加しており、今後は、家での学習時間が短い子どもたちを勉強に向かわせる取組を、さらに充実させることが必要である。

○ 読書に親しむ子どもが増えた

- ・普段の日の読書時間が増加しており、「読書が好き」と答えた児童生徒も増加している。今後は、ふだん全く読書をしない子どもたちに対して、読書に親しむ機会を持たせる等の取組を進めることが必要である。

※授業改善などの学校の取組を中心に公立学校と私立学校を比較すると、私立学校では「よくおこなった」と、より積極的な回答をしている学校が多い。これは、それぞれの取組内容の質の向上を目指しているものであり、府内の各学校において参考にすべき点と考えられる。

(例) [学校での取組「発言や活動の時間を確保した指導」]

